

# 令和4年度 事業報告及び決算

社会福祉法人 徳島県社会福祉事業団

## 目 次

1	総 括	1
2	希望の郷	10
3	未 来	12
4	ワーク&デイ ラクリエ	14
5	ふらっとホーム	16
6	希望ホーム	18
7	相談支援事業所きぼう	20
8	児童デイ フラット未来	22
9	ふらっと Café (地域共生事業)	23
10	徳島県立障がい者交流プラザ (障がい者交流センター)	25
11	徳島県立障がい者交流プラザ (視聴覚障がい者支援センター)	27
12	徳島県立総合福祉センター	30
13	徳島県地域生活定着支援センター	32
14	徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター	34
15	ノーマライゼーション促進センター	37
16	徳島県障がい者スポーツ協会	39

# 令和4年度 事業報告書

## 1 総括

令和4年度に法人設立50周年を迎え、令和4年10月3日に「さらなる挑戦と飛躍のステージへ」をテーマとして、「設立50周年記念事業」をJRホテルクレメント徳島において開催した。当日は、長年にわたり当法人の運営に多大な貢献を頂いた方々への感謝状贈呈や佛子園 雄谷理事長を招いての記念講演、若手職員が中心となり企画した3つのワークショップを実施した。

また、コロナ禍の中ではあったが、法人設立50周年を冠とした地域貢献事業として、各事業所においてイベント等を開催し地域の方々や関係機関等に感謝の気持ちを伝えた。

(地域との交流、地域貢献)

障害者支援施設「希望の郷」においては、新たに「食を通じての地域貢献」としてキッチンカーを使い、地域マルシェなどに出向き交流を図ることができた。

障害児入所施設「未来」と「ふらっとKOKUFU」においては、「未来フェスティバル」と「ふらっとKOKUFU開設1周年感謝祭」を10月15日(土)、16日(日)に同時開催し、地域の方々と交流を深めた。

また、「ふらっとCafé」においては、地域の交流拠点として確実に認知度を高め、令和5年3月23日に「徳島県版ユニバーサルカフェ」の認定を受けた。

一方、指定管理事業については、徳島県立総合福祉センターにおいて、音楽演奏等の体験を通して子供たちの感性を高める「とくしま体験トライ」や徳島県立障がい者交流プラザ(障がい者交流センター)では「第17回交流プラザフェスタ」を開催した。

徳島県障がい者スポーツ協会においては、令和5年1月に徳島県、四国大学等連携し、「2023頑張るんじょ!とくしまパラスポーツフェスティバル」を開催し、地域の方々にパラスポーツを身近に感じて頂き理解促進を図った。

さらには、地域の障がい者福祉等の課題に取り組むために、令和4年1月24日に四国大学及び四国大学短期大学部と締結した「包括連携協定」に基づき、事業団職員が特別講師となる講義の実施や、学生による事業団PR動画の制作、共同での教材開発などの連携事業を積極的に推進した。

(新型コロナウイルス感染症への対応について)

令和2年度から始まった新型コロナウイルス感染症への対応については、法人内で情報や対応方針を共有し、衛生・健康管理の徹底を図り、法人職員一丸となって、この苦難を乗り越えた。

(経営中期計画について)

令和4年度は、平成30年度に策定した「第1次経営中期計画(5箇年)」の最終年度となることから、各サービス事業における利用者サービスの向上など、計画に盛り込まれた事業の推進を図った。そして、次の5年間の基本指針として、新たに5つの柱からなる挑戦を掲げた「第2次経営中期計画」(5箇年)を策定した。

#### 【5つの挑戦】

- (挑戦1) 多様なニーズに応える柔軟な福祉サービスへの挑戦
- (挑戦2) 地域における福祉課題の解決への挑戦
- (挑戦3) ソーシャルインクルージョンを実現するまちづくりへの挑戦
- (挑戦4) 事業継続のための経営基盤強化への挑戦
- (挑戦5) 感染症や自然災害に対応できるリスク管理体制づくりへの挑戦

第2次経営中期計画は、令和5年4月1日に法人事務局内に設置した総合的な企画を担う「イノベーション推進部」中心に取りまとめ推進していく。

(利用者サービスの向上と施設の機能強化)

障害者支援施設「希望の郷」においては、重度高齢化の施設における健康維持増進及び全国障害者スポーツ大会出場を目指す選手の競技力向上等のため、徳島県障がい者スポーツ協会と連携しトレーニングルームを新設した。また、強度行動障がいの支援スキルの向上のため、職員が「強度行動障害支援者養成研修」を受講し、支援力向上を目指した。

障害児入所施設「未来」においては、施設内に虐待防止委員会等8委員会を設置し、サービスの検証・改善、利用者満足度向上への取り組みを行った。

短期入所事業では、空床を活用した「空床型短期入所事業」を行い、保護者のレスパイト利用等のニーズに応えた。

「ワーク&デイ ラクリエ」においては、国府支援学校と地域での清掃作業、就業体験の受け入れ等により教福連携を強化することができた。

就労では、自社栽培した作物をマルナカで店頭販売するなど作業収入増を図ったほか、株式会社イルローザへの企業見学やビルメンテナンス協会の協力のもと清掃知識の勉強会等を行った。

「ふらっとホーム」では、夜間支援従事者を配置し、24時間365日、困った時や悩んだ時にいつでも相談できる体制で支援を行った。

また、希望ホームでは入居者の高齢化のため、近隣病院との連携、定期的な健診等を実施する等、適切な健康管理体制を整えた。

相談支援事業所「きぼう」においては、令和4年度より徳島市から新たに受託した「徳島市障害者虐待防止センター等業務」を開始し、障がい者の安定した生活や社会参加を支援した。

児童デイフラット未来では、作業療法士及び理学療法士による専門的療育メニューや交流パーク等での運動療育、徳島県障がい者芸術・文化活動支援センターの協力による療法的音楽活動等の療育プログラムにより、一人ひとりの状況に合わせた発達支援を行った。

徳島県立障がい者交流プラザにおいては、とくしま障がい者就労支援協議会と連携して、プラザショップでの企画展や定期的に awanowa-e マルシェを開催するなど、コロナ禍においても利用者が楽しむことができる事業を工夫することで、令和4年8月に利用者200万人を達成した。

視聴覚障がい者支援センターでは、視覚障がい者が使用するスマホやパソコン等の操作支援を行う「視覚障がい者 ICT サポーター養成講習会」を開催した。また、聴覚障がい者等と聞こえる人の電話を手話や文字と音声で通訳する「電話リレーサービス」の地域講習会を開催し、26名の方々が受講した。

徳島県立総合福祉センターにおいては、福祉講座や企画展、地域連携による地域防災講座や地域交流絵画展を開催するとともに、徳島県と福祉団体との協働による「生涯健康フェア」を初めて開催した。

徳島県地域生活定着支援センターでは、全国地域生活定着支援センター等が主催する専門研修会等に参加し、専門性の向上と困難事例解決のための方策等、職員の支援スキル向上に取り組んだ。

徳島県障がい者芸術・文化活動支援センターでは、県外の優れた作品を紹介することを目的に「この素晴らしき世界 - 希望の園作品展 -」を開催した。また、四国大学徳島光・アート (T-LAP) と徳島文理大学音楽学部の学生等の協力を得て、障害者支援施設等で普段から取り組んでいる楽器演奏等の成果の発表の場として、「みんなのはっぴょうかい」を今年度初めて実施した。

徳島県障がい者スポーツ協会では、新型コロナウイルス感染症の影響によりスポーツ活動が困難な中ではあったが、令和4年10月に4年ぶりとなる「全国障害者スポーツ大会 (いちご一会とちぎ大会)」に徳島県選手団 (選手・役員59名) を派遣し、金メダルを10個獲得する等、優秀な成績を収めることができた。また、「リアル」と「オンライン」を組み合わせ合わせたハイブリッドな大会「第2回特別支援学校対抗ボッチャ大会」では、昨年を上回る参加者数となるなど、多くの方々にスポーツの楽しさを実感していただくことができた。

## 2 決算状況（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

（単位：円）

区 分	決 算 額	前年度決算額	増 減	対前年比
事業活動による収入 (1)	1,371,275,524	1,234,861,754	136,413,770	111.0%
施設整備等による収入 (2)	3,140,660	709,327,541	△706,186,881	
その他の活動による収入(3)	72,126,435	170,290,920	△98,164,485	
収入合計(1)+(2)+(3)	1,446,542,619	2,114,480,215	△667,937,596	68.4%
事業活動による支出 (4)	1,224,270,604	1,122,839,356	101,431,248	109.0%
うち、人件費支出	784,603,456	717,325,975	67,277,481	109.4%
事業活動収入に対する人件費比率	57.22%	58.09%	———	
施設整備等による支出 (5)	30,779,399	987,642,771	△956,863,372	
その他の活動による支出(6)	112,774,652	185,600,092	△72,825,440	
支出合計(4)+(5)+(6)	1,367,824,655	2,296,082,219	△928,257,564	59.6%
当期資金収支差額(7)	78,717,964	△181,602,004	260,319,968	
(ア) (事業活動資金収支差額(1)-(4))	147,004,920	112,022,398	34,982,522	131.2%
(イ) (施設整備等資金収支差額(2)-(5))	△27,638,739	△278,315,230	250,676,491	
(ウ) (その他の活動資金収支差額(3)-(6))	△40,648,217	△15,309,172	△25,339,045	
前期末支払資金残高(8)	492,388,086	673,990,090	△181,602,004	73.1%
当期末支払資金残高(7)+(8)	571,106,050	492,388,086	78,717,964	116.0%

事業活動面では、事業活動による収入は、1,371,276千円（前年度1,234,862千円）となり、前年対比111.0%となっており、確実に収入の伸びを確保している。これは、希望の郷における介護給付費収入や未来における障害児施設給付費収入をはじめ、ふらっとKOKUFUの開設に伴う障害福祉サービス等事業収入の増加、障がい者スポーツ協会の委託事業受託による委託事業収入の増加等が、主な要因となっている。

一方、事業活動による支出は、1,224,271千円（前年度1,122,839千円）となり、前年対比109.0%となっており、障害福祉サービスに係る運営費や事業費、委託事業受託に係る事業費の増加が主な要因である。

なお、人件費は、784,603千円（前年度717,326千円）で、職員数の増加や諸手当改善等に伴う人件費の増により、前年対比109.4%となっている。

収入に対する人件費支出の割合は57.22%となっている。

この結果、(ア)事業活動資金収支差額については、147,005千円（前年度112,022千円）となり、前年対比131.2%となっている。

次に、施設整備等の収支については、収入3,141千円（前年度709,328千円）であり、設備資金借入金の元金償還に係る県からの補助金（2,268千円）、施設整備等補助金（773千円）が主な内容である。

支出については、30,779千円（前年度987,643千円）であり、希望の郷における食堂照明LED化工事、中庭工事の実施、コミュニケーションロボットの購入等（8,199千円）、障がい者スポーツ協会におけるトレーニング機器の購入による固定資産取得支出（9,427千円）などが主な内容である。

この結果、（イ）施設整備等資金収支差額は、△27,639千円となった。前年度は、ふらっとKOKUFUの施設整備に係る収支の計上があったため、前年度決算額からの減少が大きくなっている。

また、その他の活動の収支については、収入72,126千円（前年度170,291千円）、支出112,775千円（前年度185,600千円）となり、（ウ）その他の活動資金収支差額は、△40,648千円となった。これは、希望の郷における将来の大規模な改修等に備え、40,000千円を施設整備等積立資産に積み立てたものである。

以上のことから当期資金収支差額については、78,718千円となり、前期末支払資金残高に加えると、当期末支払資金残高は、571,106千円となった。

○ 計算書類に対する注記（法人全体用）  
別冊 計算書類のとおり

○ 財産目録（令和5年3月31日現在）  
別冊 計算書類のとおり

### 3 設置経営及び管理運営施設等一覧

(令和5年3月31日現在)

区分	施設種別	施設名等	定員(名)			現員
			入所	通所	利用	
設置経営	障害者支援施設	希望の郷(入所)	115	—	—	117
		希望の郷(短期入所)	5	—	—	—
	障害児入所施設	未来(入所)	60	—	—	41
		未来(短期入所)	4	—	—	—
	児童発達支援事業 放課後等デイサービス事業	児童デイフラット未来	—	15	—	—
	多機能型事業所	ワーク&デイ ラクリエ	—	60	—	52
	共同生活援助事業	ふらっとホーム	12	—	—	10
		ふらっとホーム(短期入所)	3	—	—	—
	共同生活援助事業	希望ホーム	13	—	—	12
相談支援事業所	きぼう	—	—	—	—	
管理運営	—	徳島県立総合福祉センター	—	—	872	—
	—	徳島県立障がい者交流プラザ (障がい者交流センター)	—	—	227	—
	視聴覚障害者情報提供施設	徳島県立障がい者交流プラザ (視聴覚障がい者支援センター)	—	—	—	—
その他	—	徳島県地域生活定着支援センター	—	—	—	—
	—	ノーマライゼーション促進センター	—	—	—	—
	—	公益財団法人徳島県福祉基金事務局	—	—	—	—
	—	徳島県障がい者スポーツ協会事務局	—	—	—	—
—	合計	—	212	75	1,099	232

(注) ワーク&デイ ラクリエの通所定員・現員は、生活介護事業、就労移行及び就労継続支援B型の合計利用者数を記載していること。

### 4 監査の実施状況

#### (1) 公認会計士による指導監査

監査対象 令和4年度  
 監査内容 税理士法人日本会援隊徳島事務所 公認会計士による監査を実施

### 5 職員の状況 (令和5年3月31日現在)

- (1) 職員総数 223名(内訳:職員77名、専門職員(無期)28名、  
 臨時職員36名、無期非常勤職員25名、非常勤職員等57名)  
 前年度 208名(内訳:職員73名、専門職員(無期)22名、  
 臨時職員42名、無期非常勤職員25名、非常勤職員等46名)
- (2) 平均年齢 44.4才(職員のみ)  
 前年度 43.5才(職員のみ)
- (3) 男女内訳 男子32名、女子45名(職員のみ)  
 前年度 男子29名、女子44名(職員のみ)

## 希望の郷

希望の郷は、平成19年に開所し主に知的に障がい有する方が利用する障害者支援施設である。日中は、生活介護事業、自立訓練事業、夜間は施設入所支援事業、短期入所事業を実施している。施設では、感染症対策を実施する中で利用者が自分らしい日常生活と社会活動への参加を促進するためサービスを提供している。

### 1 事業活動の概況と進捗状況

#### (1) 進捗状況

新型コロナウイルス感染症への対応などで、利用者の生活の質の向上は大きな課題であった。そのような制限のある生活の中においても、施設内での利用者満足度を高めるための中庭の整備、トレーニングルームの整備については有効活用でき好評を得ている。短期入所事業については、利用控えもあり利用実績は伸びていない。運営においては、ふらっと KOKUFU への一部機能の移動後の影響もあり事業収益は減ったものの事業収支差額は、既存サービスレベルで前年度対比増加している。

#### ① 入退所の状況 (単位：名)

令和4年4月1日現在 前年度継続利用者数	新規契約者数	契約解除者数	令和5年3月31日現在 利用者数
117	1	1	117

#### ② 事業別の利用状況 (令和4年9月以降) (単位：名)

	定員	現員	平均利用者数
生活介護	115	114	112.1
施設入所支援	115	117	113.6
	定員	現員	延利用者数
短期入所	5	—	32

### 2 重点取組事項

#### (1) 利用者サービスの向上

生活介護グループでは、コロナ禍においてユニット型の支援体制を持つことで利用者の細やかな支援が行えるようになった。一人ひとりの個人の尊厳と細やかな支援により、QOLの向上を図ることができた。重度高齢化の施設における健康の維持増進には、運動の機会創出が課題であったため就労支援棟にトレーニングルームを新設し、利用者の日常生活での体力の向上に役立てることができた。強度行動障がいのある人の支援については、事業団設立50周年イベントのワークショップでも取り上げ、支援スキルの向上のため職員に「強度行動障害支援者養成研修」を受講することで支援力の向上を目指した。今後更なる研鑽のために、先進的事業所と連携し支援の向上を図る。

保護者との連携については、毎月の家族会奉仕日の実施に加え保護者からの要望もあり家族会を毎月開催に変更した。ここでは、利用者満足度の向上のための話し合いや、成年後見人制度の利用促進、勉強会などを実施した。

## (2) 運営体制の強化

毎月の法人経営会議、施設運営会議において施設の運営、経営状況を共有し計画に基づき事業を進めた。3つの生活介護グループに分かれて職員を適切に配置し日々の支援（生活支援、レクリエーション）を行った。それぞれが利用者ニーズに寄り添い独自性を出しながらも連携をとれる体制で日々の支援を行った。各種委員会活動では、年間計画に沿った事業が行われた。研修委員会、虐待防止委員会などが職員のスキルアップ研修を実施した。健康推進チームと給食委員会などの専門職とのカンファレンスも行い利用者支援の向上に努めた。

次期中期計画の作成においては、今後5年間の施設運営についてすべての職員が話し合いに参加し企画、提案を出し検討が進められた。

## (3) 人材の確保と育成

施設の広報委員会が中心となり、大学、社会福祉協議会などへの法人紹介、求職者への企業説明会に参加し人材の確保に取り組んだ。SNSでもInstagramを開設し施設からの情報発信を行った。また、大学や他法人与自然と連携し資格取得の実習の受け入れなどにも積極的に取り組んだ。実習生の受け入れは、人材の確保の手段としてだけでなく職員の支援の振り返りなどにも大変有効であった。

施設内では、新任職員に対するOJT、中堅職員及び指導的職員のATT制度も着実に成果を上げた。派遣研修のオンライン化に伴い多くの職員が参加できる機会が確保されるようにした。

職員の育成については、スキル向上のため派遣研修の参加、フィードバックを研修委員会で行い、資格取得のため法人の自己啓発支援制度活用を推し進めた。

## (4) 地域貢献と防災への取り組み

施設における自然災害、感染症対応BCP計画は常に見直し改善を図った。地域との交流は施設内でできなかったため新たに「食を通じての地域貢献」として、キッチンカーを使い地域マルシェなどに出向き交流を図った。また、法人内の他施設、他法人の施設にも活動を広げた。その際に、施設見学や職員交流会を同時開催することもできた。これは職員の横のつながり、見聞を広げる等多くの効果もあり好評であった。



## 未 来

障害児入所施設未来は、知的障がい児を主たる対象とする定員60名の福祉型障害児入所施設として徳島市国府町において平成27年度から事業を行っている。その他障害児短期入所事業を行っている。

### 1 事業活動の概況と進捗状況

#### (1) 進捗状況

本年度の障害児入所施設は、入所児童45名を目標に入所相談や関係機関への呼びかけを行ったものの、月次平均利用者は44.6名（前年対比102.1%）であった。13名の入所があったものの、高等部卒業者の就職及び18歳以上の利用者の成人サービスへの移行による退所に伴い、年度末には41名となった。

また、障害児短期入所事業（自宅で介護する方が病気等の場合に、障がい児を受け入れて食事や入浴等の支援を行う）は、保護者のレスパイト利用のニーズに応えるため、令和3年度から併設型4名に加え、空床型短期入所を開始したことにより、1,371日（前年対比99.2%）の利用実績となった。

#### ① 障害児入所施設 （入所定員：60名）

区分 性別	令和4年3月31日 現在入所者数	入所者数	退所者数	令和5年3月31日 現在入所者数
男	29	7	7	29
女	10	6	4	12
合計	39	13	11	41

利用者内訳：措置利用者21名、契約利用者20名（前年度 措置22名、契約17名）

#### ② 障害児短期入所事業 （利用定員：4名/日及び本体施設の空床）

項目	契約区分	継続契約	新規契約	契約終了	合計
(1) 契約状況		118	35	0	153
(2) 利用実績		1,371日（前年度実績1,382日）			

### 2 重点取組事項

#### (1) 利用者の確保

利用者の確保に向けて児童相談所との連携をはじめ、入所及び短期入所の利用希望のあった保護者に対する入所相談や関係機関への呼びかけを行い、障害児入所施設は13名の入所、短期入所事業についても35名との利用者契約を締結した。

#### (2) サービス向上への取り組み

施設内に福祉サービス第三者評価改善、虐待防止、感染症対策等の8委員会を設置し、サービスの検証・改善、利用者満足度向上への取り組みを行った。

短期入所事業については、従来からの併設型に加え、本体施設の空床を活用した空床型短期入所事業を行い、保護者のレスパイト利用等のニーズに応えた。

人材育成については、新型コロナの影響で延期、オンラインに変更等があったものの、強度行動障がい支援者養成研修、児童虐待防止セミナー及びサービス管理責任者等研修

等に参加させた。また、職場内研修は、利用者処遇の課題に対応する職員提案型研修等を行い、54研修（OJT研修16、OFF-JT研修38）を実施した。

【苦情等の受付処理状況】

区分	項目	苦情	意見・要望	合計	備考
保護者		7	0	7	(主な苦情内容) ・児童の様子を保護者に連絡できていなかったこと ・ゲーム機購入の際の保護者への相談
利用者		0	2	2	
地域・その他		0	0	0	
合計		7	2	9	

(3) 新型コロナウイルス感染症対策

令和4年度も引き続き施設にウイルスを持ち込ませないことを第一に基本的対策を行ったが、感染が落ち着いている時期には、行事等も積極的に行い、親子日帰り旅行や季節の行事などにより入所児童の情緒面での成長や心健やかに過ごせるよう、お楽しみ外出行事等を実施した。

(4) 防災対策

徳島市及びふらっと KOKUFU と共同で実施する予定であった福祉避難所開設訓練が令和5年度に延期となったため、福祉避難所としての自主点検を行った。

(5) 地域貢献と地域連携、その他

管理栄養士による栄養講座の実施や、大学、障害者支援施設及びボランティアと連携し、eスポーツ（e未来kidsクラブ）に取り組んだ。ZOOMアプリを活用し、オンラインでの交流や、ネットワーク型eスポーツイベントにも参加した。

未来フェスティバルは、ふらっと KOKUFU 開設1周年記念行事と同時開催し、多くの地域の方々等に来園いただいた。地元のボランティアグループ気延クラブの方々に来園いただき、児童と一緒にお餅つきを行い、交流を深めた。また、中止していたボランティアの受け入れや実習生の受け入れを再開した。



▲ 日帰り旅行



▲ 未来フェスティバル



▲ クリスマス会



▲ サッカー部

## ワーク&デイ ラクリエ

ワーク&デイ ラクリエは、令和3年9月1日に希望の郷の通所機能（生活介護、就労移行及び就労継続支援B型）を移管し多機能型事業所としてスタートした。障がいのある方々が地域社会の一員として輝けるように、利用者の「ありのまま」を受け入れ、「生活人」としての「自己選択」と「自己決定」を尊重し、ライフステージやニーズに応じて、自立した地域生活を営むことができるように運営を行っている。

### 1 事業活動の概況と進捗状況

#### (1) 進捗状況

ワーク&デイ ラクリエでは、地域とのつながりづくりを念頭に、地域生活拠点「ふらっと KOKUFU」の特色を活用し地域交流を行った。国府支援学校とは、地域での清掃作業、就業体験の受入、インターンシップ及び農業体験等により多くの場面で教福連携を強化することができた。

生活介護では、新たな取組としてソーシャルサーカス(サーカス技術の練習・習得を通じて協調性・コミュニケーション力等を総合的に育むサーカス)の講習受講を開始。その他、個々の個性に合わせた創作活動を行う等、芸術文化活動に力を入れることができた。また、就労では自社栽培した作物の販売先確保・マルナカでの店頭販売を行い作業収入増、株式会社イルローザに企業見学やビルメンテナンス協会の協力のもと清掃知識の勉強会等を行い就業に対してモチベーションアップにつながるきっかけづくりを実施した。

事業別の利用状況（令和5年3月31日現在）

	定員	現員	平均利用者数
生活介護	30	29	22.5
就労移行	6	4	3.6
就労継続B型	24	19	14.6

### 2 重点取組事項

#### (1) 利用者サービスの向上など

- ① 新型コロナウイルス感染症対策として、利用者・職員だけでなく関係者の健康管理、健康観察・消毒の徹底など感染予防と拡大の予防を行った。昨年度に引き続きコロナ禍の生活で楽しめる活動に重点をおき、Zoomを活用した体力づくりや徹底した対策をしたうえで行事の充実化を行った。
- ② 利用者の支援区分重度化や強度行動障がい者の支援に対応できるよう、支援員の増員等によりサービス提供体制の充実と向上を図ることができた。
- ③ 個々の個性を生かした芸術文化活動に力を入れ、障害者アーティストの卵発掘展では審査員特別賞を受賞した。また、新たな取り組みとしてソーシャルサーカスの講習を開始し、利用者全員による発表会での演技披露を実現した。
- ④ ノウフク連携では、新たな農地・新作物へのチャレンジを行い工程を増やし、利用者が関われる作業を増やした。自社栽培した作物をマルナカでの店頭販売・イベントでのマルシェに参加し接客体験を行った。また、6次化では補助金を活用し乾燥野菜パウダーの新たに商品ラベルを作った。

(2) 教福連携の強化

ダイバーシティの先導モデルとして機能強化を図っている「国府支援学校」と地域で清掃活動、就業体験の受入、農業体験及びマルナカでの店頭販売等を協同して行い連携強化を行った。

(3) その他

- ① 地域生活拠点「ふらっと KOKUFU」の特色を活用し、ふらっと Café で開催された国府町マルシェなどの地域イベント・ワークショップへの参加、出店を行った。
- ② 利用者が参加可能な地域貢献活動を開始し、近所の神社での清掃活動を定期的に行うことができた。
- ③ 防災への取り組みでは、送迎時間帯の地震を想定した訓練など、いろいろな状況を想定しての避難訓練を実施した。



国府支援学校と地域での清掃活動



障がい者アーティストの卵発掘展受賞



ソーシャルサーカス発表会



ビルメンテナンス協会との勉強会



新たな農地・新作物へのチャレンジ



マルナカでの店頭販売

## ふらっとホーム

令和3年9月に開所し、24時間365日夜間専属職員の配置体制が整った共同生活援助・短期入所としての事業を展開している。

令和4年度は、国府支援学校・障害児入所施設未来をはじめとした、近隣地域との連携を図りながら共同生活を送り、自立した社会生活を目指して、本人の望む暮らしができるように、サービスを提供した。

また、令和4年度は新たに4名を受け入れ、男性6名・女性4名、計10名が入居している。日中は事業所に通って福祉による就労支援等を受けた。

### 1 事業活動の概況と進捗状況

ふらっとホームでは、夜間支援従事者を配置し、24時間365日、困った時や悩んだ時にいつでも相談できる体制で支援を行った。朝夕の食事及び行事食の提供や外出支援・金銭管理等、障害特性や状況に応じた、きめ細やかなサービス体制の構築を図ることで、個別ニーズに合わせたサービス提供や相談支援を適切に実施した。

#### (1) グループホーム入退所の状況

令和4年4月1日現在	入所者数	退所者数	次年度への継続利用者数
7名	4名	1名	10名

#### (2) 短期入所利用者の状況

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者延べ人数(人)	31	35	20	13	10	18	26	17	28	37	35	44	314

### 2 重点取組事項

#### (1) サービス提供体制の充実と向上

サービス提供や相談への対応について、職員間で連携を図り、統一した援助が行えるよう、努めた。必要な支援については、月1回開催される職員連絡会で協議の上、共通認識による、統一した支援を行った。

「感染症予防策」「虐待防止」「視覚障がい者の支援」「応急手当講習」「障がい者支援」等の職員研修に参加することで、支援のあり方等の再確認と職員のスキルアップに努めた。

#### (2) 防災、減災への取り組み

ふらっと KOKUFU 全体で地震発生時の避難訓練を実施した。

#### (3) 利用者の獲得

相談支援事業所を中心に、利用希望者の問い合わせ及び空き状況の連絡を行い、感染症対策に十分注意しての見学受け入れを行った。その結果、入居者の増加につながった。

#### (4) 短期入所の運用

短期入所に関して、感染対策を講じての利用者受け入れ体制を整え、可能な限り利用できる環境の継続に尽力した。その結果、短期入所受入人数の増加につながった。

また、徳島市地域生活支援拠点事業として緊急短期入所の受入れを担い、必要に応じて緊急的な対応ができる体制を整備し、緊急受入れのための体験利用も行った。



★絵画制作に夢中★

♪週末の昼食選び♪



円年始恒例初詣と、ふらっと仲間の書初め🖋

地域において共同生活を営みながら自立した社会生活を送り、本人が望む暮らしを過ごすことができるように、サービス提供や相談支援を適切に実施した。利用者状況については、男性7名、女性5名、計12名が入居しており、一般就労者8名、福祉的就労者4名が地域生活の中心としての就労に取り組んだ。

前年度に引き続きコロナ禍での生活となった。帰宅時には、手洗い・消毒・うがいの徹底を行い、希望者には積極的にワクチン接種を実施し、感染予防に努めた。

## 1 事業活動の概況と進捗状況

希望ホームでは、世話人が朝夕の食事の提供、健康管理などを中心に支援し、支援員が日中に、通院支援、余暇支援、居室の整理整頓などを含む生活支援を行っている。複数の職員がシフト勤務をしているため職員間の情報共有などを重要視して業務にあたった。

ホーム入居者の健康管理においては、高齢化に伴い重要になっており、近隣病院の協力医療機関との連携のもと、定期的な健診を実施し、適切な健康管理体制を整えた。

サテライト住居の利用については体験入居を実施し、利用者ニーズの把握に努めた。

### ① 入退所の状況

令和4年4月1日現在 前年度継続利用者数	入所者数	退所者数	次年度への継続利用者数
12名	0名	0名	12名

## 2 重点取組事項

### (1) 新型コロナウイルス感染症の対応と地域支援

うがい・手洗い・消毒・換気の基本的感染症対策を徹底し、定期的な抗原検査を実施しながら地域生活が安心して過ごせるよう適切な支援を行った。

コロナ禍であっても出来る限りイベント等への参加を促し、社会参加を通じて地域の一員としての自覚と社会性を身につけられるよう支援を行った。

### (2) サービス提供体制の充実と向上

利用者の健康管理のため食事の提供、医療が必要な場合に適切な対応がとれるよう、職員間の連携を強化し、早期治療において健康の維持増進を図った。

日頃からコミュニケーションが取りやすい環境を整え、利用者との良好な関係性を構築し、相談に応じながら生活の質の向上に向けた支援を実施した。

就労先である一般企業、福祉サービス事業所職員との連携を密に行い、障がいへの理解を深めながら雇用継続に繋がるよう働きかけを行った。

### (3) 防災、減災への取り組みの強化

避難確保計画・事業継続計画の見直しを実施するとともに、年3回の地震、津波、高潮を想定した避難訓練を実施して災害発生に備えた。

また、避難訓練時には災害マニュアルに基づいた災害時の注意事項の説明、消火器を使用した実技訓練等安全教育も同時に行い、防災知識の向上を図った。

### (4) 次期中期計画の策定

現状を知り、事業所を取り巻く環境を理解しながら課題を洗い出し、今後目指すべきあり方を事業所内で議論しながら策定に取り組んだ。



＜学びのコースにおける  
車椅子バスケット体験＞



＜水消火器を使った消火訓練＞



＜隣接するイオンでの買物風景＞

## 相談支援事業所きぼう

相談支援事業所きぼうは、平成 25 年 4 月から一般・特定・障害児相談支援事業を開始し、徳島市からは「徳島市障害者相談支援事業」と「徳島市地域生活支援拠点事業」の 2 事業に加えて、令和 4 年 4 月より「徳島市障害者虐待防止センター等業務」の受託も開始した。

コロナ禍においては、利用者の方の状態把握に必要な訪問・面会、入所・通所や短期入所の新規受け入れ等に制限があった為サービスの調整に困難を要したが、各相談支援専門員の地道な対応で諸問題を解決し、各事業共にほぼ前年度を超える実績を残すことが出来た。

また、相談内容の推移から「不安の解消・情緒の安定」や「就労」の増加が見られ、要因として生活や就労等の問題が複雑化し、気持ちの傾聴や関係事業所との連絡回数が実績に繋がったと考えられ、相談支援として更に精神面のケアや連携が必要であると感じた 1 年であった。

### 1 事業活動の概況と進捗状況

#### (1) 相談件数の状況

		R4 年度	前年度
特定相談支援事業	サービス利用支援	453	413
	継続サービス利用支援	1,097	1,012
	計	1,550	1,425
障害児相談支援事業	障害児支援利用援助	195	190
	継続障害児支援利用援助	245	169
	計	440	359
一般相談支援事業	地域移行支援	0	0
	地域定着支援	0	0
	計	0	0
総 数		1,990	1,784

#### (2) 徳島市障害者相談支援事業の状況

##### ア 相談件数の状況

	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳	その他	計
障害者	2,041	0	2,693	1,605	36	30	65	6,470
障害児	31	7	646	83	348	0	679	1,794
計	2,072	7	3,339	1,688	384	30	744	8,264

##### イ 相談内容

内容	件数	内容	件数
福祉サービスの利用等	6,827	家計・経済	103
障害や病状の理解	33	生活技術	88
健康・医療	229	就労	398
不安の解消・情緒安定	95	社会参加・余暇活動	7
保育・教育	45	権利擁護	12
家族関係・人間関係	30	その他	399
計			8,264

### (3) 徳島市地域生活支援拠点整備事業の状況

#### ア 登録者の概要 ※ () 内は重複障害の再掲

身体障害	知的障害	精神障害	その他	計
3 (2)	53 (6)	1 (0)	0 (0)	57 (8)

#### イ 相談・緊急時受入れ対応

相談		緊急時受入れ		
電話	来所	契約数	見学・体験	緊急時受入れ
12	14	56	26	0

### (4) 徳島市障害者虐待防止センター等業務の状況

#### 通報・届出等件数

通報・届出	27
その他(相談など)	18
合計	45

## 2 重点取組事項

### (1) 質の高い相談支援の提供および専門性の向上

職員の専門性を高める為に、強度行動障害支援者養成研修に2名、相談支援従事者研修(現任研修)に3名、主任相談支援専門員養成研修に1名参加し、終了することが出来た。

公認心理師による発達検査は各段階の研修に参加し、今年度は児童のWISCを実施することが出来た。

### (2) 各委託事業の実施

徳島市から受託している「徳島市障害者相談支援事業」では、地域の困りごと相談窓口としての役割を務め、「徳島市障害者地域生活支援拠点事業」においては、コロナ禍で面談・体験利用等に制限あったものの新規申し込みの受付、24時間365日体制の相談支援は継続した。

令和4年度より新たに受託を開始した「徳島市障害者虐待防止センター」と「とくしま見守りねっと(徳島市高齢者・障害者見守りネットワーク)」においても徳島市と連携を図り、適宜協議を重ねながら事業を実施することが出来た。

### (3) 多様で柔軟な働き方

コロナ禍での感染症対策と業務に集中できる環境を整えて効率化を図ることを目的として在宅勤務を継続し、多様な働き方によるワークライフバランスの充実に努めながら、新しい形の在宅勤務についても協議を重ねた。

また、各相談支援専門員の負担軽減を図る為、適宜意向や意見の聞き取りに加えて業務のマニュアル化に努めた。



事務所廊下にて

## 児童デイフラット未来

児童デイフラット未来は、放課後等デイサービス事業と児童発達支援事業の多機能型事業所として定員15名で「ふらっと KOKUFU」の発達支援棟において事業を行っている。

### 1 事業活動の概況と進捗状況

#### (1) 進捗状況

児童デイフラット未来は、令和3年9月から「ふらっと KOKUFU」の発達支援棟へ移転し、新しく整備した遊具、訓練用具を使用して事業を実施した。

利用実績については、放課後等デイサービス事業と児童発達支援事業の2事業を合わせて、3,559名（前年対比104.6%）となっており、作業療法士及び言語聴覚士による専門的療育メニューや交流パーク等での運動療育、徳島県障がい者芸術・文化活動支援センターの協力による療法的音楽活動等の療育プログラムにより、一人ひとりの状況に合わせた発達支援を行った。

#### ① 放課後等デイサービス事業 (利用定員：児発、放デ合わせて15名/日)

項目 \ 契約区分	継続契約	新規契約	契約終了	合計
(1) 契約状況	57	4	3	58
(2) 利用実績	3,317名（前年度実績3,214名）			

#### ② 児童発達支援事業 (利用定員：児発、放デ合わせて15名/日)

項目 \ 契約区分	継続契約	新規契約	契約終了	合計
(1) 契約状況	1	2	1	2
(2) 利用実績	242名（前年度実績187名）			

### 2 重点取組事項

#### (1) 利用者の確保等

令和3年度から開始した児童発達支援事業の契約者獲得のため、関係機関等への周知などPRに努めた。また、子育ての悩みや療育相談に応じるため、保護者に対する事業所内相談支援を行った。



▲ クリスマス会



▲ 個別言語療法



▲ ボランティアとの交流

## ふらっと Café (地域共生事業)

ふらっと Café は、「ほっとスペース」「パブリックホール」からなるコミュニティスペースであり、地域の様々な方が集える場所の創出を目指し設置された、法人全体における地域共生事業の取組みの中心となる施設である。

地域の方が交流できるようなイベント等を継続して実施しており、開催件数23件、延べ3,932名の地域住民の参加があった。貸館としては定期的な地域のサークル活動や子供会等での活用があり、貸出件数39件、延べ390名の利用があった。また、だれもが自由に交流・活躍できる場となるようにイベント以外でも施設を積極的に開放した。

令和5年3月に「徳島県版ユニバーサルカフェ」認定施設となり、ダイバーシティ社会の実現へ向けてより質の高い取組みを進めていく。

### 1 事業活動の概況と進捗状況

#### (1) ふらっと Café の利用状況

		3月31日付実績
貸館関係	貸館 (件)	39
	利用人数 (名)	390
イベント関係	イベント等 (件)	23
	参加人数 (名)	3,932

#### (2) 主なイベント等

- ア 5月28日(土) 自衛隊フェスタ
- イ 6月23日(木) 書道パフォーマンス
- ウ 9月17日(土) ジャグっと KOKUFU
- エ 10月15日(土)  
16日(日) 1周年感謝祭
- オ 11月5日(土) 子育てまるっとマルシェ
- カ 12月18日(日) 国府町マルシェ IN ふらっと KOKUFU VOL.7
- キ 1月22日(日) ホマレノフェス

### 2 重点取組事項

#### (1) だれもが集える場の定期的な設定

定期的なイベントの開催はもとより、施設を常時開放して専門職員を配置し、いつでも相談できる場として設置する等、地域課題の把握に努めた。

#### (2) 地域と協働した避難訓練及び福祉避難所開設訓練の実施

近隣の中学校と連携して地域へ向けた防災クイズ等を実施し、防災知識の普及啓発を行った。また、令和5年度に予定している福祉避難所開設・運営訓練の実施へ向けて徳島市と協議を行った。

#### (3) 「ふらっと Café」運営における組織体制の整備

法人全体でふらっと Café の運営に関わるための体制を整備し、多様な職種の職員が運営に関わった。

#### (4) 「徳島県版ユニバーサルカフェ」認定申請

令和5年3月、「徳島県版ユニバーサルカフェ」の認定を受けた。



イベントの様子



中学生による防災クイズ



徳島県版ユニバーサルカフェ認定交付式

## 徳島県立障がい者交流プラザ（障がい者交流センター）

障がい者交流センターにおいては、障がい者の自立と社会参加の促進に向けた活動と交流の拠点施設として、施設機能を最大限に活用し、地域の方々と共に障がい者の自立と社会参加を促進に取り組んだ。

管理運営については、視聴覚障がい者支援センター及び障がい者スポーツセンターと連携して利用者の安全管理を徹底するとともに、利用者、入居団体、地域参画型による管理運営を行った。併せて、施設の長寿命化を県と協議しながら行うとともに、インターネットセキュリティの強化を行った。

また、館内入居団体等と協力し、節電に取り組むことで光熱水費の抑制にも努めた。

### 1 事業活動の概況と進捗状況

第1次経営中期計画の最終年となった令和4年度においては、経営中期計画の主要事業として掲げていた「各種講座の開催」をはじめとする8項目を概ね達成することができた。

令和4年8月には、「利用者200万人達成イベント」や「第17回交流プラザフェスタ」の開催など、基本的な感染症対策等を行うことでイベントや講座を実施することができた。

しかし、コロナの影響により計画を進めることができなかった「キッズコーナーの新設」については、第2次中期計画において計画を見直し実施する。

#### (1) 会議室等利用実績 (注) 利用実日数 358日/年間

項 目		令和4年度実績	令和3年度実績	対前年比
有料施設	件数(件)	3,062	2,043	149.8%
	人数(人)	25,649	21,109	121.5%
ボランティア室(無料)	件数(件)	271	280	96.8%
	人数(人)	2,109	2,443	86.3%
合 計	利用件数(件)	3,333	2,323	143.5%
	利用人数(人)	27,758	23,552	117.9%

#### (2) 利用収入実績 (単位:円)

令和4年度実績額	令和3年度実績額	対前年比
651,735	584,350	111.5%

#### (3) 実施事業の内容

事業内容	実 施 内 容 等
プラザ講座の開催	① 実施回数：44回                      ② 参加人員：238名 ③ 講座内容：陶芸 他6講座      ④ ボランティア：17名
第17回交流プラザフェスタの開催	① 日 時：令和4年8月7日(日) ② 参加人員：1,100名 ③ 事業内容：プラザ利用者に頃の感謝の気持ちを込めて、「第17回交流プラザフェスタ」を開催

通報・消火・避難誘導訓練	① 実施回数：2回 ② 参加人員：約60名（職員及び利用者） ③ 訓練内容：通報、消火、避難誘導訓練、館内設備の確認等
障がい者の自立支援の推進	① 就労場所：障がい者交流プラザ全館 ② 就労者数：5名 ③ 事業内容：館内清掃業務等を通じて障がい者の自立を推進
障がい者作品のロビー展示等	① 実施回数：9回 ② 事業内容：パネル展、絵手紙展等
館内連絡調整会議の開催	① 実施回数：3回 ② 出席者数：45名 ③ 会議の内容：プラザの運営に関する連絡協議等
プラザ防災講座	① 実施回数：2回 ② 参加人員：67名 ③ 事業内容：「災害時における車中泊避難について」 「自衛隊の災害派遣活動及び体験型講座」
プラザ福祉講座	① 実施回数：1回 ② 参加人員：24名 ③ 事業内容：「音訳ボランティアによる読み聞かせ」 「手話をしながらの読み聞かせ」
障がい者の学びコース	① 実施回数：31回 ② 受講者：164名 ③ 講座内容：スマホ入門 他30講座
館内設備等の整備と充実	① 実施内容：空調設備改修工事

## 2 重点取組事項

### (1) 「設立50周年」を記念するイベントの開催

法人設立50周年記念イベントとして「第17回交流プラザフェスタ（大感謝祭）」を令和4年8月7日（日）に開催。同日、プラザ利用者200万人を達成した。

### (2) 各種講座の充実、サービスの向上

関係機関と連携し、プラザ講座及び障がい者の学び講座を開催し、約400名の方々が受講した。

また、とくしま障がい者就労支援協議会と連携して、定期的に awanowa-e マルシェを開催することで、利用者サービスの向上と障がい者の工賃向上につながった。

### (3) システム保守管理の強化

ランサムウェア等から個人情報等を保護するため、プラザ館内でインターネットセキュリティの強化を図った。（事務所内 Wi-Fi 環境の強化、定期的なメールアカウントの変更など）



第17回交流プラザフェスタ  
キッチンカー



防災講座



Awanowa-e マルシェ

## 徳島県立障がい者交流プラザ（視聴覚障がい者支援センター）

視覚や聴覚に障がいのある人の支援専門機関として、点訳・音訳指導員、歩行訓練士、手話通訳士等を配置し、視覚・聴覚障がい者が安心して地域生活を営むことができるよう、関係機関と連携・協働し、一人ひとりに寄り添った支援を目指して、視覚障がいリハビリテーション、情報・コミュニケーション支援事業等を実施した。

### 1 事業活動の概況と進捗状況

新型コロナウイルスの感染状況が変化する中、感染対策を徹底し、可能な限り対面での事業実施に取り組んだ。また、四国大学との連携事業や徳島県介護支援専門員協会との連携強化に努め、若い世代や関係団体に向け、視聴覚障がい者支援センターの業務や役割について周知した。

生活訓練においては、スマホ・パソコン等の機器対応が90%以上を占め、メモアプリやLINEの使い方等支援を行った。また、ICTサポーター養成講習会修了者に依頼し、スマホやパソコン等操作支援の協力をいただいた。

点字図書館事業に関して、在宅で自由な時間に利用できるサピエ図書館のダウンロード数は、前年度よりさらに増加した。

聴覚障がい者への支援として、新型コロナウイルスに係る県知事記者会見、ワクチン接種時の通訳等に対応した。また、新型コロナウイルス感染症に対する制限の緩和とともに、講演会の開催等が増え、個人からの派遣依頼も併せ、手話通訳派遣依頼・要約筆記派遣依頼が前年度から増加した。

#### (1) 進捗状況

##### ア 点字図書館事業（視覚障がい者情報提供事業）

（単位：タイトル数）

項目		本年度実績	前年度実績	備考
種別	区分			
点字図書	受入	98	85	
	利用	1,472(982)	2,248(1,614)	
音声図書	受入	93	83	
	利用	33,641(28,978)	33,295(27,616)	
テキストデイジー図書他	受入	13	18	
	利用	1,264(1,259)	1,660(1,660)	

※（ ）内はダウンロード数

##### イ 生活訓練事業（視覚障がいリハビリテーション）

（単位：延べ人数）

種別	本年度実績	前年度実績	備考
相談	248	296	補装具・日常生活用具、同行援護、PC等情報機器操作上の問題等

通所・訪問支援	174	287	歩行訓練、点字訓練、情報機器訓練等
アウトリーチ支援	48	35	
遠隔支援	9	26	情報機器訓練等
いろいろカルチャー	222	244	料理・手芸、レクリエーション・音楽鑑賞等

ウ 聴覚障がい者情報・コミュニケーション支援事業 (単位：本数、件数)

種 別	本年度実績	前年度実績
字幕入りビデオ等の貸出	51	49
手話通訳者派遣	1,611	1,352
県知事定例・臨時記者会見への手話通訳士派遣	46	221
要約筆記者派遣	90	58

## 2 重点取組事項

### (1) 徳島県社会福祉事業団設立50周年記念事業

ワークショップC「Library for All～近未来の図書館や図書のカタチを覗いてみよう～」を当センターが担当し、視覚障がい者等の方々が利用できるICTを活用した読書環境について、ワークショップに参加した公立図書館職員の方々と情報共有した。

第1部：AIスピーカーで聴く読書

第2部：進化するバリアフリー図書館サービス 参加者25名

### (2) 徳島県読書バリアフリー推進事業

・公立図書館等職員研修会を開催し、サピエや国立国会図書館のサービス、また障がい者が利用できるアプリや読書支援機器等の活用、視覚障がい者及び視覚障がい以外の読書困難者に関わる方々の発表を通じて、公共図書館職員等と連携した障がい者サービスの必要性を再認識した。

第1回：サピエ図書館の利用法、国立国会図書館サービスについて 参加者18名

第2回：ICT活用術、読書バリアフリーの現状と課題について 参加者24名

・県内高等学校放送部4名の生徒を対象に、音声図書製作体験研修を実施した。

1回2時間 全6回

### (3) 鳥取県と徳島県の手話通訳者等交流研修会の開催

鳥取県危機管理局危機管理政策課職員、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会職員から「鳥取県と鳥取県聴覚障害者協会の支援体制」及び「災害時の支援経験」について学習した。実際の避難所での通訳者の活動内容や、避難所の様子等を知り、支援に当たる際はどのような配慮と工夫が必要か再認識し、今後の支援体制構築に向け考える機会となった。参加者27名

### (4) 見えない・見えにくい方向け、聞こえない・聞こえにくい方向けミニ福祉機器展開催

新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止していた福祉機器展を例年より出展企業を減らし開催した。また、日本ライトハウス情報文化センター松本氏による「ニポラチャンネル生福祉機器紹介&なんでも相談会」を併せて開催し、最新の機器やスマホアプリをいくつか紹介いただき、参加者全員で学習した。参加者144名

(5) 電話リレーサービス地域講習会開催

聴覚障がい者等ときこえる人の電話を、手話や文字と音声で通訳することで、即時双方向につながる「電話リレーサービス」の地域講習会を開催した。24時間365日対応、普段の会話はもちろん、警察や病院などへの緊急通報等、聴覚障がい者の意志疎通手段の一つとして活用の方法等を学習した。

参加者26名



電話リレーサービス  
地域講習会



ミニ福祉機器展



鳥取県と徳島県の手話通  
訳者等の交流研修会

# 徳島県立総合福祉センター

## 1 施設概要

徳島県立総合福祉センターは、福祉関係者やボランティア団体等の活動拠点として、昭和58年に開館し、ホール、会議室等の活動の場の提供や各種福祉情報等の発信によって、社会福祉の発展に寄与している。

## 2 事業活動の概況と進捗状況

本年度の会議室等の利用状況は、新型コロナウイルス感染症による影響もなく、利用件数及び利用収入とも前年度を大幅に超える状況となった。

また、自主事業をはじめとする施設運営については、福祉講座や企画展、地域連携による地域防災講座や地域交流絵画展を開催するとともに、徳島県と福祉団体との協働による、「生涯健康フェア」を開催したほか、音楽演奏等の体験を通して子供たちの感性を高める徳島県社会福祉事業団設立50周年関連事業、「とくしま体験トライ」を開催したところである。

### (1) 会議室等の利用状況

項目	年度			増減率	
	令和3年度				令和4年度
来館者数	55,225			62,175	112.5%
会議室・設備 (有料)	件数(件)	5,375		6,020	112.0%
	人員(名)	53,172		59,046	111.0%
	利用収入(円)	15,354,420		17,770,290	115.7%
ボランティア室 (無料)	件数(件)	332		502	151.2%
	人員(名)	2,053		3,129	152.4%
	利用収入(円)	—		—	—
合計	件数(件)	5,707		6,522	114.2%
	人員(名)	55,225		62,175	112.5%
	利用収入(円)	15,354,420		17,770,290	115.7%

### (2) 自主事業の内容

事業項目	自主事業の内容
福祉講座	① 実施回数：1回 ② 延べ参加者：30名 ③ 講座の内容：ガーデニング講座
企画展	① 実施回数：22回 ② 企画展の内容：認知症パネル展、ちぎり絵展、災害ボランティアパネル展、Web公開講座など
地域防災講座	① 実施回数：1回 ② 参加人員：26名（地元自主防災会及び入居団体職員） ③ 講座の内容：災害時における在宅避難を考える

地域交流絵画展	① 実施回数：1回 ② 出品数：22点 ③ 絵画展の内容：昭和・富田幼稚園の園児が制作した絵画作品をロビーに展示し、来館者・保護者等が観賞
生涯健康フェア	① 実施回数：1回 ② 延べ参加者：49名 ③ フェアの内容：「健康長寿は生活習慣の改善から」をテーマに食生活の改善、運動習慣、講演及びパネル展を開催
とくしま体験トライ	① 実施回数：1回 ② 延べ参加者：50名 ③ 講座の内容：音楽演奏、阿波踊り等の体験を通して子供たちの感性と相互の連携を図ることを目的に開催



福祉講座（ガーデニング講座）



とくしま体験トライ



生涯健康フェア

### 3 重点取組事項

事業項目	重点取組内容
館内連絡調整会議	① 実施回数：3回 ② 参加人員：36名 ③ 会議内容：改修工事の概要、光熱水費の推移状況報告ほか
障がい者の就労支援事業	① 参加人員：年間延べ253名 ② 事業内容：障害者支援施設の利用者が館内清掃業務に従事し、就労活動を通じて自立が図れるよう支援
館内設備等の整備と充実	① 実施内容：全館照明のLED化、中庭の整備、会議室内の美化、湯沸設備の交換等
徳島県による改修工事関連費	① 改修箇所：3工事に係る設計費 ② 改修内容：高架等水槽取替工事、5階会議室及び備蓄倉庫新設工事、5階トイレ及び給湯室改修工事に係る設計費
コロナ感染対策	① 感染対策：非接触式体温計、飛沫感染ガード等の備品の配備 ② 感染予防：マスク着用、手指消毒、検温の呼びかけ及び利用者名簿の提出等

## 1 事業概要

徳島県地域生活定着支援センターは、高齢又は障がいがあり福祉の支援を必要とする矯正施設退所者及び刑事司法手続き段階にある被疑者及び被告人等に、保護観察所、矯正施設、検察庁及び弁護士会等と連携し、地域生活の定着に向けた支援を行っている。

## 2 事業活動の概況と進捗状況

本年度の業務執行状況は、保護観察所からの依頼によるコーディネート業務及び関係機関からの相談に応じる相談支援業務は、前年度を大幅に上回ったものの、矯正施設退所後の受け入れ施設等への助言を行うフォローアップ業務は、前年度並みの実績となった。

また、令和5年度から事業を開始する高齢又は障がいがあり刑事司法手続き段階にある被疑者・被告人等に釈放後に帰住先の調整や各種福祉サービスの利用を行う、「高齢・障害被疑者等支援業務（入口支援、弁護士依頼分）」への検討を行った。

さらに、再犯防止の啓発活動への取り組みとして、各種団体からの依頼を受けて職員が啓発活動を行う「再犯防止講師派遣事業」を実施したところである。

### (1) 業務執行状況

(単位：件)

項目	年度	令和3年度	令和4年度	増減率
	コーディネート業務	前年度継続分	3	2
本年度新規分		4	13	—
合計		7	15	214.2%
フォローアップ業務	前年度継続分	11	12	—
	本年度新規分	3	3	—
	合計	14	15	107.1%
相談支援業務	合計	13	26	200.0%

### (2) 再犯防止講師派遣事業

(単位：件)

項目	年度	派遣件数		主な派遣依頼先
		令和3年度	令和4年度	
再犯防止講師派遣事業		—	6	徳島市更生保護女性会 日本司法支援センター 徳島県消費者政策課ほか

## 3 重点取組事項

### (1) 関係機関との情報共有と相互連携

徳島保護観察所及び徳島刑務所との三者会議を開催し、今後出所予定者で支援対象となる方の情報共有を行うとともに、関係機関との相互連携を図った。

(開催回数：10回、参加者：90名)

(2) 高齢・障害被疑者等支援業務検討会議の開催

令和5年度から事業開始する高齢・障害被疑者等支援業務（入口支援）に向けて、徳島県、保護観察所、検察庁及び弁護士会による「高齢・障害被疑者等支援業務検討会議」を開催し、実施後の課題、事前準備事項等の検討協議を行った。

（開催日：令和4年10月、参加者：13名）

(3) 地域生活定着支援ネットワーク協議会の開催

徳島保護観察所との共催により、高齢・障害者刑務所出所者等に対する支援と取組状況への理解を図り、併せて、関係機関の連携強化を目的に開催した。

（開催日：令和4年11月、参加者：62名）

(4) 職員の支援スキル向上

全国地域生活定着支援センター等が主催する専門研修会等にWebを通じて参加し、専門性の向上と困難事例解決のための方策等、職員の支援スキル向上に取り組んだ。

（開催回数：14回、参加者：22名）

(5) ホームページのリニューアル

ホームページをリニューアルし、運営の基本方針、業務内容、事業報告、情報提供及び講師派遣事業等を基軸に、見やすく、わかりやすい掲載内容に改めた。

## 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

芸術・文化は、障がいのある方々が「優れた才能」を発揮し、「感動」を創造できる大きな可能性を秘めた舞台であることから、センターでは、徳島県における障がい者芸術・文化の拠点として、「支える」「育てる」「繋がる」「発表する」「広める」の5本柱を基本に事業を進めている。

### 1 事業活動の状況と進捗状況

県内外の作品交流を目指した「第2回全国公募Tシャツデザイン展」や、「第8回障がい者アーティストの卵」発掘展、県外アーティストの作品展「この素晴らしき世界-希望の園作品展-」に加え、個展や巡回展を開催し、障がい者の芸術・文化活動の裾野拡大と障がい者の芸術の素晴らしさを県民にPRした。

また、徳島文理大学の協力による「療法的音楽活動を体験する-職場で音楽活動を実践するために-」、徳島大学人と地域共創センターとの共催による「マスキングテープでクリスマス」など大学等と連携したワークショップを開催し、幅広い創作活動支援に係る人材育成に取り組んだ。

さらに、初めての試みとして、「みんなのはっぴょうかい」を開催し、障害者支援施設等で取り組んでいる楽器演奏など、舞台表現活動の発表の機会の創出にも努めた。

特に、法人設立50周年を契機として、障がい者スポーツ協会、四国大学との連携により、ICT、光アート、パラスポーツを融合した、「フード・ファイターゲーム」の共同研究・開発に取り組み、10月3日に行われた50周年記念事業のワークショップにおいて公開した。多くの施設等で利用できるよう、今後も、継続的に共同研究を進めていくこととしている。

項目	内容		備考
相談支援	作品の販売に関する相談等		相談件数 12件 (電話、来所等)
人材育成	ワークショップ	① 絵本のひみつ -愛を届ける仕掛けとしての絵本-	参加者数 12名
		② マスキングテープでクリスマス	参加者数 13名
		③ 療法的音楽活動を体験する- 職場で音楽活動を実践するために-	参加者数 10名
		④ 陶芸の基本を学ぼう	全2回 参加者数 7名
		⑤ リージョナルシアター事業	4回開催 参加数 32名
		⑥ ビルダーカード	参加者数 30名
		⑦ タングラム	参加者数 8名

	「この素晴らしき世界」ゲストトーク	参加者数 29名
ネットワークづくり	企画委員会の開催	開催数 2回 第2回は書面開催
発表等の機会の創出	①片岡政美作品展	出展数 20点
	②第2回全国公募「Tシャツデザイン展」 優秀賞5点、佳作10点、入選34点	応募数 503点 入選数 49点
	③「この素晴らしき世界 希望の園作品展」 特定非営利活動法人 希望の園（三重県）	展示作品数 61点 入場者数 1,209名
	④第8回「障がい者アーティストの卵」発掘展	出品数 115点 入賞数 7点 入場者数 717名
	⑤プラザギャラリー	企画展 5回 貸出 3施設
	⑥みんなのはっぴょうかい	出演者数 102名
	⑦プラザショップでの作品販売	作家数 5名
	⑧Spring展	出品数 28点
情報収集	訪問調査 新たな作家・作品の発掘	特別支援学校等 27箇所
情報発信	ウェブサイト	更新数 84回
	インスタグラム	更新数 55回

## 2 重点取組事項

### (1) 「この素晴らしき世界」希望の園作品展

県外の優れた作品を紹介することを目的に、三重県松坂市の特定非営利活動法人「希望の園」の作品展を県立近代美術館で開催した。絵画作品61点を展示するとともに、「希望の園」理事長と出品アーティスト2名によるゲストトークを県立近代美術館ロビーで行った。ゲストトークでは、障がいのある人たち一人ひとりが豊かになり、生活そのものが芸術となることを目指している「希望の園」の活動の様子を実感することができた。また、県立近代美術館担当学芸員による展示解説にも多くの人の参加があり、障がい者芸術に対する関心の高さが窺えた。

### (2) ワークショップ「マスキングテープでクリスマス」

徳島大学准教授の田中 佳氏を招聘し、指で簡単にちぎって気軽に壁に貼ったり剥がしたりできるマスキングテープを使って、クリスマス飾りを作るワークショップを行った。アートワークルームでの講義・実習の後、1階ギャラリーに場所を移し展示実習を行った。徳島大学ホスピタルアートクラブの学生も2名参加し、参加者との交流も図ることができた。出来上がった作品は、1月上旬までプラザギャラリーで展示した。また、来年度は、障害者支援施設での実施を計画している。

### (3) 「みんなのはっぴょうかい」

障害者支援施設等で取り組んでいる楽器演奏など、舞台芸術の発表の場として今年度初めて実施した。楽器演奏・ダンス・手話コーラスなど多様な表現活動が発表され、会場を盛り上げた。また、四国大学徳島光・アート (T-LAP) の協力により、華やかな舞台演出となった。なお、徳島文理大学音楽学部の学生が会場運営にボランティアとして参加し出演者との交流の場にもなった。参加者からは、「この発表の機会が目標となり練習に熱が入った」「来年もぜひ参加したい」との感想を頂いた。



「障がい者アーティストの卵」発掘展受賞作品巡回展  
( 四国大学交流プラザ )



ワークショップ「マスキングテープでクリスマス」  
( 県立障がい者交流プラザ )



「この素晴らしき世界」希望の園作品展  
( 県立近代美術館 )



「みんなのはっぴょうかい」  
( 県立二十一世紀館 )

## ノーマライゼーション促進センター

ノーマライゼーション促進センターは、障がい者の自立と社会参加を促進するための啓発広報活動やリフトバスを運行することで、日常生活の支援に努めた。

### 1 事業活動の状況と進捗状況

#### (1) 進捗状況

障がい者の自立と社会参加に向けた取り組みを行ってきた。また、心の輪を広げる体験作文や障害者週間のポスターの募集、障がい者の集い県民大会の開催を通しての啓発広報、福祉バス運行等による社会見学やスポーツ大会への参加など日常生活の支援を行い福祉の向上に努めた。

#### ア 心の輪を広げる体験作文及び障害者週間ポスター募集

応募数 [令和4年7月1日(金)～9月2日(金)]

小学生部門 障害者週間のポスター内閣府表彰2名

	小学校	中学校	高校・一般	計	各部門において、最優秀賞、優秀賞、佳作を選考し令和4年12月10日(土)の第41回障害者の集い県民大会において表彰した。
作文	5編	22編	9編	36編	
ポスター	4点	6点		10点	

#### イ 障がい者による書道・写真の募集

応募数 [令和4年8月12日(金)～9月12日(月)]

写真部門：銀賞2名

書道	38作品	写真	26作品	全国審査(全国障害者総合福祉センター)への応募を行った。

#### ウ 徳島県障がい者福祉バス(リフト付きバス)の利用状況

	県内	県外	計	徳島県精神保健福祉協会、 徳島県視覚障害者連合会女性部、 オーティターの会 他
回数	13件	6件	19件	
人数	283人	156人	439人	

#### (2) 福祉バス(リフトバス)の運行体制

徳島県障がい者福祉バス(リフト付きバス)の月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
回数	1	2	1	2	0	0	2	5	1	0	2	3	19
人数	16	50	18	43	0	0	42	127	27	0	46	70	439

福祉バスの運行により、社会参加への支援を行った。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響も少なく、利用増となった。※前年度利用回数11回(利用者数220名)

## 2 重点取組事項

### (1) 障がい者福祉の理解促進を図る

今年度の障がい者の集い県民大会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加者を各表彰対象者及び付添者の参加とし開催した。また、オープニングでは、令和4年10月に4年ぶりに開催された全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」、ユニバーサル芸術祭「スローリーライブ」ダイジェスト版の動画上映を行った。

### (2) 障がい者の自立と社会参加を促進する

リフトバス運行事業については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、利用回数は減少したものの、障がい者の方々が、安心・安全に利用できるように、感染症対策を行いながら事業を実施した。



第41回県民大会



障害者週間のポスター最優秀賞  
(高校・一般の部)

## 徳島県障がい者スポーツ協会

新型コロナウイルス感染症の影響により地域でのスポーツ活動が困難な中、安全・安心に配慮した各種スポーツ大会の開催、とくしま人材バンク「パラスポーツサポーター」等による技術指導を実施した。また、外出困難な方や遠く離れている方とも繋がることのできるオンラインの特性を生かした、オンラインスポーツ教室の実施等、「リアル」と「オンライン」を組み合わせたハイブリッドでの事業展開を行った。

### 1 事業活動の状況と進捗状況

#### (1) 進捗状況

当協会は、平成28年7月に設立され、関係団体とのネットワークを構築しながら、障がい者スポーツの振興を図った。

令和3年8月に開催された「東京2020パラリンピック競技大会」を契機にパラスポーツを未来につなげるレガシーとして、共生社会の実現を目指し、パラスポーツの振興を図るため、他法人との共催によるパラスポーツイベント、令和4年度徳島県社会福祉事業団50周年を機に四国大学を始め他団体との業務連携を行った。

また、5月には、全国障害者スポーツ大会出場希望者でノーマピック・スポーツ（参加者：7競技86名）、10月には全国障害者スポーツ大会選手団派遣（個人競技7競技22名、聴覚バレー8名、コーチ・役員29名 計59名）等、新型コロナウイルス感染症対策を配慮し、事業を行った。

令和2年9月設置の「とくしまパラスポーツ人材バンク」では、パラスポーツサポーターを派遣することで、身近な地域でのスポーツ活動の向上を図った。

#### (2) 実施事業の内容

事業目的	事業内容	実施内容等
障がい者スポーツの交流支援	徳島県南部地域ノーマピック・ボッチャ交流大会	1 開催日：令和4年6月11日（土） 2 場所：阿南市那賀川スポーツセンター 3 参加人数：選手24名、審判等12名 計36名
	徳島県中部地域ノーマピック・ボッチャ交流大会	1 開催日：令和4年7月16日（土） 2 場所：徳島県立障がい者交流プラザ体育館 3 参加人数：選手29名、審判等12名 計41名
	徳島県西部地域ノーマピック・ボッチャ交流大会	1 開催日：令和4年9月23日（金・祝） 2 場所：ふれアリーナみよし 3 参加人数：選手18名、審判等17名 計35名
	徳島県ノーマピック・ボッチャ交流大会	1 開催日：令和4年11月6日（日） 2 場所：徳島県立障がい者交流プラザ体育館 3 参加人数：選手21名、審判等13名、計34名
	特別支援学校対抗ボッチャ大会	1 開催日：令和4年11月30日（水） 2 会場：吉野川市民プラザアリーナ棟メインアリーナ 3 参加人数：ボッチャ24人、ターゲットボッチャ（オンライン）42名

	共生社会ホストタウン (ジョージア)との交流 (オンラインターゲットボッチャ)	1 開催日：令和5年1月23日(月) 2 会場：徳島県立障がい者交流プラザ体育館(ホスト会場) 3 参加人数：特別支援学校・障害者支援施設19名 ジョージア 6名 計25名
指導者の育成	パラスポーツ Life アカデミー事業	1 開催日：令和5年1月14日(日)、2月5日(日) 2 場所：徳島県立障がい者交流プラザ むつみパーク蔵本 3 内容： ① オンライン設定・接方法について ② オンライン研修 「ひと」が集まれるバスケットボールの魅力とは！ 講師：若松直樹氏((株)がんばろう徳島) 3 参加人数：35名
	とくしまパラスポーツ人材バンク設置事業	1 登録者数：67名 2 派遣件数：114件
障がい者スポーツの普及、促進	徳島県障がい者スポーツ推進プロジェクト (2023 頑張るんじょ！とくしまパラスポーツフェスティバル)	1 目的：ICTを活用した障がい者スポーツ体験イベントを開催 2 開催日：令和5年1月22日(日) 3 開催場所：徳島県立障がい者交流プラザ 4 参加人数：会場107人、ライブ配信視聴回数345回
	障がい者スポーツの普及促進事業	1 目的：障がい者スポーツの振興に資する競技用具の整備を必要とする障がい者スポーツ団体に補助金を交付 2 補助団体：8団体(2,000,453円) 3 補助内容：競技用車椅子、ボッチャセット等への補助。 昨年度に引き続き、感染症対策消耗品にも補助を行った。
	出張スポーツ教室	1 開催日：令和4年6月～令和5年2月 2 回数：32回(399人)
	オンラインスポーツ教室	1 開催日：令和4年6月～令和5年2月 2 回数：77回(1,112人)
	徳島県障がい者スポーツ推進プロジェクト(障がい者スポーツ理解促進事業及び生涯スポーツ支援事業)	1 目的：ICTを活用した体験イベントを通じた障がい者スポーツの普及・理解促進及び障がい者スポーツ指導者協議会、理学療法士会、作業療法士会等と連携した障がい者スポーツの機会創出 2 内容： ① パラスポーツ体験：ブラインドサッカー、デフサッカー、パラフットボール、PETRA・ハンドサイクル体験等

		② パラスポーツ指導者ガイド・スキルアップ研修：エクササイズ、ストレッチ、オン・オフラインでのボッチャ
パラアスリートの発掘・育成	パラアスリート卵発掘！ジュニア・アカデミー事業	<p>1 目的：運動適正テストやスポーツ体験プログラムを実施し、スポーツの楽しさの実感や身体能力・競技力の向上を図る。</p> <p>2 開催日：令和5年1月13日(金)・1月20日(金)、2月3日(金)</p> <p>3 開催場所：国府支援学校体育館</p> <p>4 内容：徳島県立国府支援学校 中学部、高等部生徒を対象に身体能力測定やスポーツ体験実施。</p> <p>5 参加人数：66名</p>

## 2 重点取組事項

- (1) スポーツと文化の祭典である「2020東京オリンピック・パラリンピック」のあと、これを機に障がい者スポーツの楽しみを未来につなげる先導的役割を図るため、令和4年6月に徳島県障がい者スポーツ協会企画委員会を設置した。(委員11名)
- (2) 徳島県社会福祉事業団50周年事業の一環として、に四国大学と共同研究を行っているプロジェクトマッピングの技術を応用した、誰もが楽しめるエクササイズゲーム「光アート×パラスポーツ～フード・ファイターゲーム～」のワークショップを行った。
- (3) 公益財団法人日本パラスポーツ協会の委託事業を受託し、法人内施設の「希望の郷」フリースペースにトレーニング器具の整備を行った。
- (4) コロナ禍の中、スポーツ活動の実施において、大会規模やルールを工夫し、「リアル」と「オンライン」を組み合わせたハイブリッドで、昨年に引き続き、第2回特別支援学校対抗ボッチャ大会を開催した。
- (5) 他団体との連携事業として、①徳島新聞社会文化事業団と共催し、徳島ニュースポフェス「エイブル2022」の開催、②バリフリBOX∞(令和4年12月3日、4日開催)でのパラスポーツ体験ブースへの参加、③ソーシャルフットボール全国大会(令和4年11月26日、27日開催)へスタッフとして協力を行った。



ノーマピック・スポーツ大会



第 22 回全国障害者スポーツ大会



社会福祉事業団 50 周年  
ワークショップ